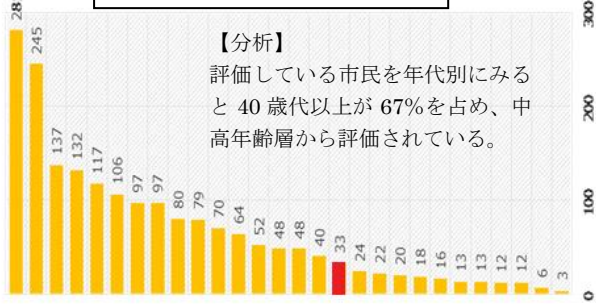


(2) 各施策の評価結果とその対応

① 歴史文化の活用と伝統文化の継承 <<評価：59.0点>>

市民意識調査結果

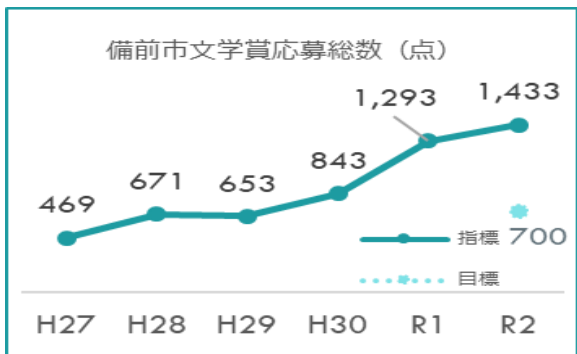
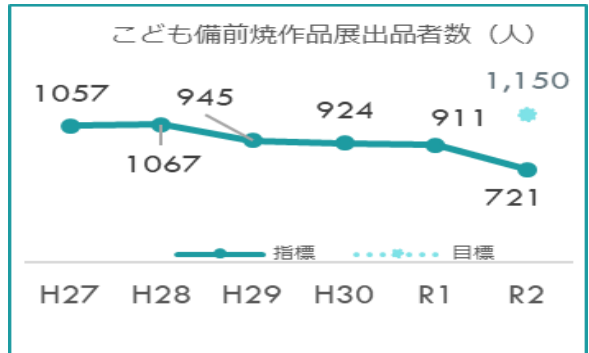
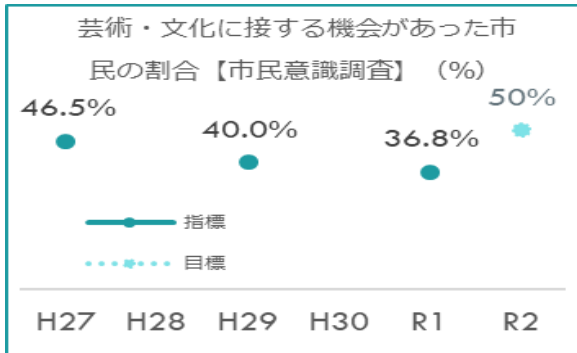
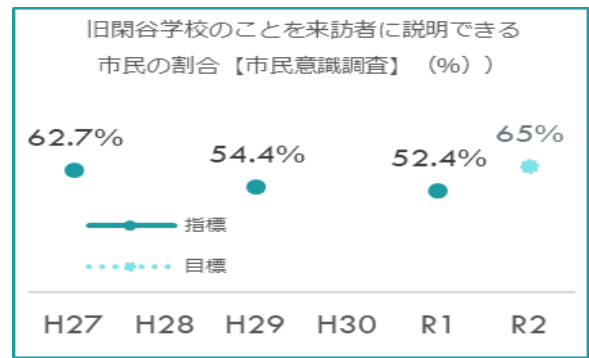
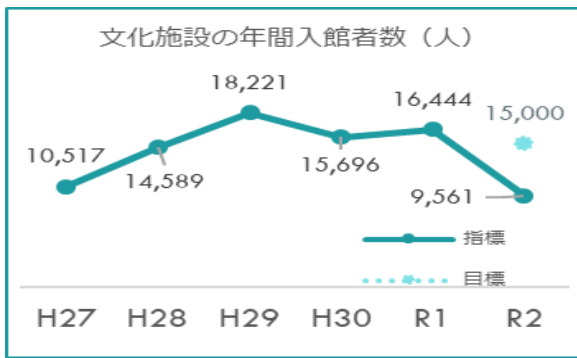
評価:17位/28施策中



重点化:26位/28施策中



施策成果指標



成果指標の妥当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2	1		3
市民委員意見	成果指標の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の入館者数、こども備前焼作品展出品者数について、市内の人を増やしたいのか、市外の人を増やしたいのか、またそれを達成するための施策は何なのかという整理が必要。 ・ここ数年、成果指標の基本目標が同じであり、妥当性・必要性が表現されていない。 					
	目標値の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度、実態に即していると思う。 ・こども備前焼作品展及び文学賞への出品数の目標値を上げてよいのではないかと。 					
事業構成の適当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2	2		3
市民委員意見	事業は施策の成果を上げるのに適しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な方向性（幹）に対して枝が事業（取組）となる。現在の評価では一つ一つは理解できるが、全体として何の役にたっているのかが見えづらく、評価がしにくい。 ・事業については市民向け、外向けのメリハリをつけて実施することで効果が出やすく、評価もしやすくなると思う。 ・事業に関してはとてもよく取り組まれていると感じる。 ・新しく取り組む姿勢が感じられない。 ・「まちづくり」のビジョンが具体性に欠ける。 ・市民との連携が必要。 ・図書館との連携が必要。（郷土の偉人に関する本などを配置し、市民の理解を深める） ・歴史文化の活用と伝統文化の継承を実現させるための事業として、事務事業及び各関連部門との連携がない。文化財などの活用を今後どのようにするか、具体的な考えを示すべきである。 					
施策の有効性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2	1		3
市民委員意見	目標値の設定は妥当か	特に意見なし					
	指標分析は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・各文化施設の機能統合ビジョンが見えず、説得力に欠ける。 ・この指標分析によって成果があるのか、ないのか。また、改善、見直しが必要なのかが分かりにくい。市民や観光客に対して積極的に活用、啓発を推進している対策がない。 					
	課題解決に向けての取組は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・できることから取り組まれていると思う。 					

進行年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	1	1		3
市民委員意見	課題を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもよく分析し、把握されている。 ・よくできているが、少し不足していると思う。 ・取組内容の課題が把握されていない。判断理由や取組内容が抽象的で判断できない。 					
	課題解決に向けての取組は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・できることから取り組まれていると思う。 					
翌年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	1	2		2
市民委員意見	今後の取組は総合計画の目標とする姿に向かっているか	<ul style="list-style-type: none"> ・向かっている。 ・備前焼、旧閑谷学校だけでなく、各種文化財の調査活用・啓発事業が必要。 ・問題の先送りが多いのではないか。 					
	取組は市民ニーズをとらえているか	<ul style="list-style-type: none"> ・とらえていると思う。 ・前年の踏襲でなく、市民目線に立ち、目標や目的を設定し、本市の歴史・伝統・文化を次世代へ継承する仕組みづくりを進めてほしい。 					

市民委員から見た課題

- ・図書館機能との連携がほとんど見えてこない。
- ・関係文化施設には多額の費用がかかっているが入館者数が少ない。備前焼ミュージアムの建て替えを機に施設の集約や統廃合が必要。
- ・旧閑谷学校についてPRが不足している。ホームページへの掲載、公民館等へのチラシ配置では不十分と考えるため、その他効果的なPR方法の検討が必要。
- ・埋蔵文化財管理センターでワークショップを受けたが素晴らしい場所であることを知った。ホームページやSNSを活用したPRを行っているようだが、もっと効率的で発信力のある方法の検討が必要。
- ・埋蔵文化財管理センターの企画内容は良く考えられているが、参加者が絞られる傾向にある。バックヤードツアーなど市民目線の企画もあれば、子どもも大人も楽しめるのではないか。
- ・歴史文化の継承、保存が待たないとなっている。高齢化と後継者育成の不足が課題。
- ・情報発信は重要。ターゲットによってPRの方法が異なる時代。ターゲットを明確にし、PR方法を変える必要がある。また、記念誌等においては、作ることが目的とならないよう、作成目的を明確にし、その目的にあった配置場所やPR方法を検討すべき。

長期的に取り組むべき課題

- ・子ども備前焼作品展について、市内で参加がない学校がある。市内の子どもたちが、将来、備前焼について説明ができ、PRできるよう全市的に取り組むべき。
- ・備前焼の後継者（作家）の動向も把握する必要があるのではないか。カリスマ的な作家を発掘し、市を挙げてPRするなどを検討してみてもどうか。
- ・「まちづくりに活かす」という具体的なビジョンの作成。
- ・目標設定、目的設定。

委員会後の担当課対応

- こども備前焼作品展について、吉永エリアの小中学校からの参加がない。備前焼を理解し、PRができるよう全市的に取り組んではどうか。
⇒全市的な取り組みとなるよう依頼していきます。
- ワークショップなどのPR方法としてホームページやSNSを活用しているが、もっと効率的で発信力のある方法はないのか。
⇒もっと広く発信するためにPR手段について検討していきます。
- 図書館機能との連携がほとんど見えてこない。
⇒備前市ゆかりの人物等についての顕彰や文化財の紹介など様々な形の連携を考えていきたいと思います。
- 歴史文化の活用と伝統文化の継承を実現させるための事業として、事務事業及び各関連部門との連携がない。文化財などの活用を今後どのようにするか、具体的な考えを示すべきである。
⇒令和3年度に作成いたします備前市文化財保存活用計画に基づき地域の特徴を生かした地域振興や文化財の継承に繋げていくとともに、各関連部門との連携や文化施設の活用も考えていきたいと思います
- 問題の先送りが多いのではないか。
⇒令和3年度に作成いたします備前市文化財保存活用計画に基づき、各種文化財の調査や活用を計画的に進めていきます。